資料６－３

衛星放送の現状と課題

持続可能な多チャンネル放送市場に向けて

一般社団法人 衛星放送協会
2026年11月24日

Japan Satellite Broadcasting Association Confidential and Proprietary

衛星放送協会とは

- 1998年6月に発足した業界団体
- 正会員：衛星放送事業者および衛星放送に番組を提供する番組供給事業者
- 会員構成：正会員68社・賛助会員37社
- 衛星放送の普及発展と、業界が抱える諸問題の解決を目的とする

衛星放送の現状

約1,100万世帯を支える重要な映像インフラ

約
1,197万
世帯規模

多様な専門チャンネルを通じて
日本の放送文化とコンテンツ産業を支える

※衛星放送協会調べ

一方で、有料視聴マーケットのIP化・モバイル化、契約者減少による経営圧迫と固定費負担率の上昇、4K推進の停滞、制度の硬直化などにより、衛星放送事業の持続可能性が低下。

コンテンツ制作・調達への投資余力も縮小し、専門チャンネル、プラットフォーム、地域CATV、制作・供給事業者、広告主、権利者、視聴者が相互に支える多チャンネル放送のエコシステムも危機に直面。対応が遅れれば、事業者の多様性とコンテンツの多様性が失われるおそれがある。

Japan Satellite Broadcasting Association Confidential and Proprietary

目指す姿｜衛星放送を、これからの時代に必要とされるメディアへ

多様なコンテンツを、誰もが、いつでも、どこでも楽しめる環境を実現

コンテンツの多様性

専門チャンネルならではの
独自コンテンツを継続・発展

視聴者の利便性

放送と通信を融合し、
多様な視聴スタイルに対応

社会を支える基盤

全国への情報伝達と
災害時の情報提供を担う

持続可能な産業

事業者・制作会社・権利者が
共に発展できる環境をつくる

実現に向け、制度・技術・事業環境の変革を進める

Japan Satellite Broadcasting Association Confidential and Proprietary

主な課題

7つの論点

01 インフラコストの低減

02 BS右旋空き帯域の活用

03 衛星基幹放送制度の見直し

04 2K HEVCの実用化

05 CASの統合

06 プラットフォーム事業者の業務範囲見直し

07 IPユニキャストによる同時配信

1｜インフラコストの低減

現状・課題

- 契約数減少により、衛星利用料・設備運用費・伝送コスト等の固定費負担が相対的に上昇
- コスト増加でコンテンツ制作・調達への投資余力が縮小
- 多チャンネル放送エコシステムの維持が困難に

対応策

- 衛星・CATVを含めた伝送インフラ全体の低減が不可避
- トラポン・送出費、CATVへのチャンネル供給伝送コストを見直す
- 削減原資をコンテンツ制作・調達へ再投資

要望

- 行政の助力による関係者間協議の推進

Japan Satellite Broadcasting Association Confidential and Proprietary

2｜BS右旋空き帯域の活用

現状・課題

- BS4K放送終了に伴い、BS右旋帯域に空き帯域が発生（2-1）
- CS110度帯域には空きがなく、新たなサービス展開に制約
- CS110度帯域にいまだSD画質のチャンネルが存在する

対応策

- BS右旋空き帯域の早期再編
- CS124/128度帯域のみで放送するチャンネルのCS110度帯域への進出および、CS110度帯域からのBS帯域進出を可能とする活用策を検討

要望

- 地上波代替も考慮し、有料衛星放送の視聴者利便性向上と市場活性化に資する帯域運用（2-2）
- BS、CS110の一体的な普及促進

Japan Satellite Broadcasting Association Confidential and Proprietary

2-1｜4K放送

現状・課題

- キー局系BS社が4K放送からの撤退を表明
- 放送機器メーカー等による4K放送関連機材の開発停滞
- 設備更新費用の高騰が懸念され、既存事業者の設備更新が困難になる可能性

要望

- 「衛星放送WG」第2次取りまとめ以降の状況変化を受け、今後の4K放送の方向性について放送事業者と行政による協議の場を設けていただきたい
- 放送での4Kコンテンツ展開を進めるため、NHK　BSプレミアム4Kの外部制作比率努力目標を引き上げていただきたい。

Japan Satellite Broadcasting Association Confidential and Proprietary

2-2｜衛星放送による地上波代替

現状・課題

- BS右旋には空き帯域があるものの、地上波放送局をすべて収容できるだけの帯域はない
- CS110度には空き帯域がない
- 両帯域では既存事業者が放送を行い、一定の視聴者を獲得

要望

- 既存放送事業者のビジネスに影響を与えない周波数・方法で地上波代替を実施すべき

Japan Satellite Broadcasting Association Confidential and Proprietary

3｜衛星基幹放送制度の見直し

現状・課題

- 市場環境の変化に伴い、有料放送事業者の事業環境が厳しくなり現行制度の制約が増大
- 市場変化に即した規制緩和・制度簡素化が必要
- 字幕・解説放送、災害対応、各種報告義務などの負担が増加
- 多チャンネル市場の維持・活性化に向け、マスメディア集中排除原則やトラポン保有規制の緩和について検討が必要

対応策
要望

- 一般放送並みの柔軟性を有する新たな制度区分・運用形態を検討
- 字幕・解説放送の実施に対する、支援制度の拡充
- チャンネル特性に応じた災害対応の在り方の検討
- 認定事項変更、事故報告、定期報告等の手続き簡素化。
- 衛星放送に関するマス排の緩和

衛星放送の現状と課題

4｜2K HEVCの実用化

現状・課題

- 周波数利用効率の向上とインフラコスト削減の有効な手段として2K HEVCに期待
  - -限られた周波数帯域をより効率的に使用可能
  - -2K放送と4K放送が同一の中継器を使用でき、帯域再編を柔軟に実施可能
  - -1chあたりの使用周波数帯域の縮減による、衛星インフラコストの低減
- 受信機普及状況や設備投資負担など、解決すべき課題

対応策

- CS124/128度帯域からCS110度帯域へのチャンネル移行やSDチャンネルのHD化を見据えた技術検討
- 帯域利用効率向上と衛星インフラコスト軽減を同時に実現

要望

- 地上波代替を視野に入れた、2K HEVC実用化の推進
- BS右旋の4K放送帯域を活用した実証事業等による課題検証

Japan Satellite Broadcasting Association Confidential and Proprietary

5｜CASの一本化

現状・課題

- B-CASとACASの二重運用によるコスト増加と制度の複雑化
- B-CASカード、アプリ等の不正視聴による事業者の収益毀損が継続

対応策

- 有料放送市場全体の健全性向上と運用効率化
- 不正視聴機器・不正視聴アプリへの対策を強化

要望

- 将来的なACASへの一本化に向けた課題の検討

Japan Satellite Broadcasting Association Confidential and Proprietary

6｜プラットフォーム事業者の業務範囲見直し

現状・課題

- 視聴者はモバイル環境やオンデマンド利用へ急速に移行
- 配信サービス各社は、多額のコンテンツ投資と柔軟な商品設計を推進
- 衛星有料放送は放送事業者単位の制度である一方、視聴者には有料放送管理事業者による多チャンネルサービスとして認識されている
- 市場ニーズに即したパッケージの早期投入が困難
- 基幹放送事業者が同じ内容をそれぞれ約款届け出する現在のスキームが非効率

要望

- 有料衛星放送の持続可能性を確保しつつ、市場ニーズに機動的に対応できるよう、管理事業者の業務範囲を見直す
- 放送事業者の業務効率化を推進諸手続きの簡素化

Japan Satellite Broadcasting Association Confidential and Proprietary

7｜IPによる放送の同時配信

現状・課題

- 視聴者の利用環境は放送波中心から通信回線中心へ移行
- 現行制度では多様化する視聴スタイルへの対応が後手
  -IPによる放送の同時配信について、権利許諾が容易でない
- ケーブルテレビ事業者のSTB不足に対して、IPを使用した放送の同時配信を実施する必要がある。

対応策

- モバイル・マルチデバイスなど多様化する視聴形態へ対応
- 既存ケーブルテレビや新たなプラットフォームへのチャンネル供給実験
- 権利許諾の簡略化

要望

- IPによる同時配信を「放送」と同じ法制度上の位置付けとして明確化
- 放送の定義、放送の同時配信に関する、省庁間を越えた会議体を設ける

Japan Satellite Broadcasting Association Confidential and Proprietary

総括｜衛星放送の持続可能性に向けて

契約者減少下においても、多様な専門チャンネルとコンテンツ産業を維持・発展させることが最大の課題

制度改革によるコスト削減

事業環境に即した制度・運用の見直し

削減原資の再配分

コンテンツ制作・調達への再投資

この2つを一体的に進めることが不可欠

Japan Satellite Broadcasting Association Confidential and Proprietary

APPENDIX

Japan Satellite Broadcasting Association Confidential and Proprietary

BS放送（右旋）のテレビ番組のチャンネル配列図



■：スカパーJSAT(株)が有料放送管理事業者として、当該有料放送の役務に係る管理業務を行っている番組。
注：*斜体表示のテレビ番組（7ch、11ch、17ch）は4K。*

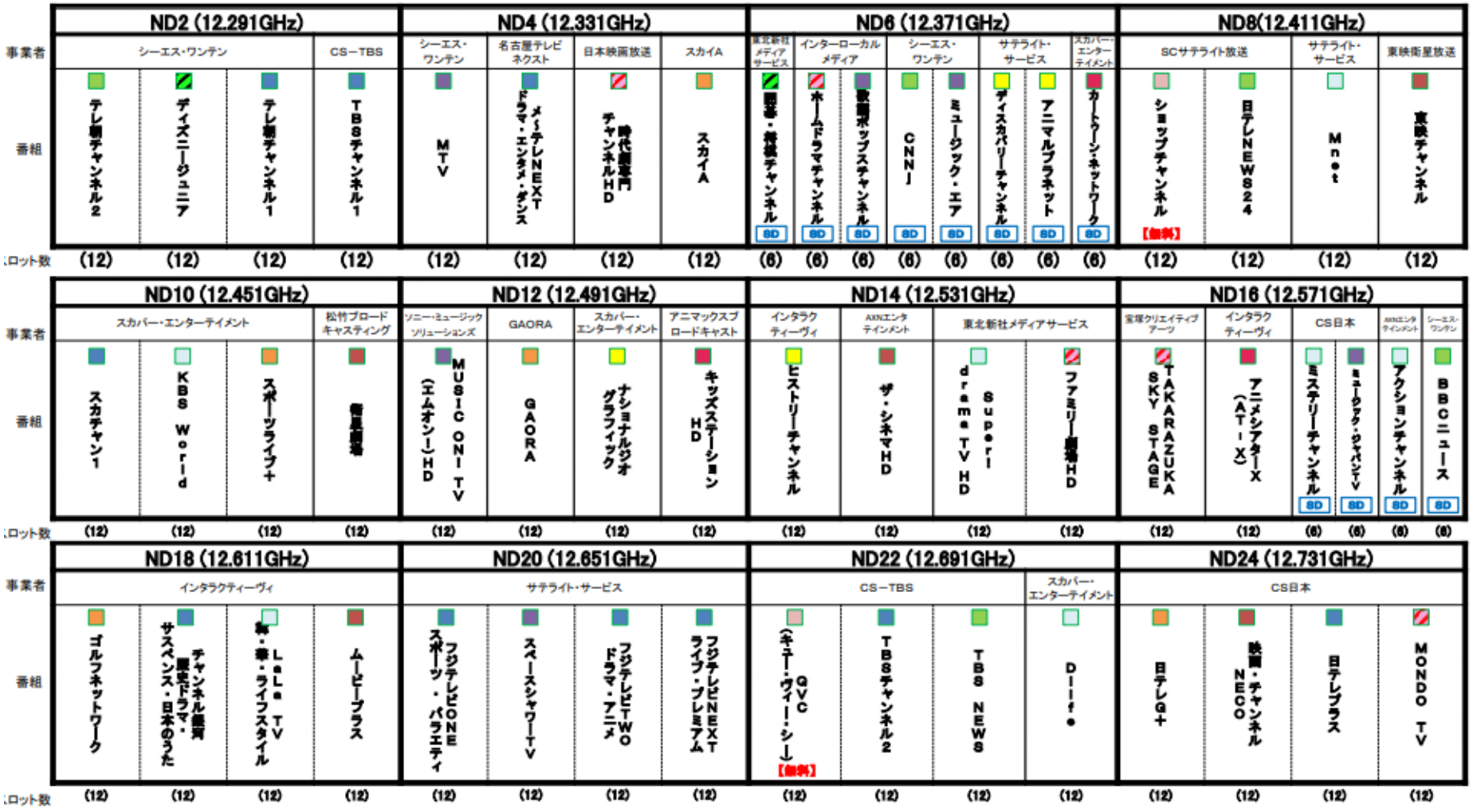
（＊）現在、空き帯域となっている。

放送番組数（令和8年4月1日現在）※	
4K 9番組　HD 26番組	合計35番組

※ データ放送、音声放送を除く。

Japan Satellite Broadcasting Association Confidential and Proprietary

東経110度CS放送（右旋）のテレビ番組のチャンネル配列図



※スカパーJSAT(株)が有料放送管理事業者として、上記全ての衛星基幹放送事業者が提供している有料放送の役務に係る管理業務を行っているもの。

放送番組数（令和8年4月1日現在）	
HD42番組　SD12番組	合計54番組

Japan Satellite Broadcasting Association Confidential and Proprietary